

会議結果のお知らせ

- 会議名：県立高校の修学旅行に係るプロジェクトチーム（第1回）
- 日時：令和元年11月18日（月）9：00～11：00
- 場所：別館7階 教育委員室
- 出席者：16名
 - ・ 檜崎 信浩 教育次長
 - ・ 和田 俊二 大分県高等学校PTA連合会会長
 - ・ 川邊 隆 大分県高等学校PTA連合会副会長
 - ・ 長嶋 浩二 大分県高等学校PTA連合会副会長
 - ・ 高畑 一郎 大分県立学校長協会会長（大分上野丘高校）
 - ・ 大久保 和弘 大分県立学校長協会副会長（大分舞鶴高校）
 - ・ 佐々木 浩 大分県立学校事務長会会長（佐伯豊南高校）
 - ・ 坂本 敏郎 大分県立学校事務長会事務局長（大分工業高校）
 - ・ 中村 崇志 教育改革・企画課長
 - ・ 門野 秀一 教育改革・企画課総務班 主幹（総括）
 - ・ 佐藤 誠一郎 教育財務課長
 - ・ 寺川 直樹 教育財務課財務企画監
 - ・ 江藤 優子 教育財務課学校運営支援班 主幹（総括）
 - ・ 久保田 圭二 高校教育課長
 - ・ 新貝 隆 高校教育課管理予算班 主幹（総括）
 - ・ 久知良 周平 高校教育課管理予算班 主事
- 次第
 - （1）県立高校の修学旅行に係るPTの設置について（説明）
 - ①設置の経緯及び目的
 - ②今後の予定について
 - （2）県立高校の修学旅行について（説明）
 - ①修学旅行の位置づけ
 - ②県立高校の修学旅行の実態について
 - ③修学旅行決定までのプロセスについて
 - （3）県立高校の修学旅行の課題について（意見交換）
 - ①修学旅行のあり方（行先、日程、費用等）について
 - ②修学旅行経費の基準について
 - ③保護者等からの意見聴取方法について
 - ④入札業者について
 - （4）その他
 - （5）次期開催日時について

○ 内容

■ あいさつ

・座長あいさつ【檜崎信浩教育次長】

修学旅行は高校時代の大きな行事であり、学習指導要領の教育課程に位置づけられた学校行事として、それぞれの学校の教育目標や生徒の実態に合わせて、学校で様々な工夫をしながら実施しており、その費用についても入札等を行った上で、保護者の負担軽減につながるよう取り組んできた。

ただ、時代の流れの中で新たな課題が出てきた。一つは費用の問題。教育委員会が一つの目安として示している金額と現実が乖離してきた。また、結果として、旅行業者が偏っている現状について、県議会をはじめ保護者の方からもご意見をいただいているところ。

このような状況を受け、今回PTを立ち上げ、修学旅行を見直し改善すべき点は改善していく。このPTでは、まずは皆様方から意見を伺いたい。いろいろな改善策について提案をし、それについてもご意見を賜りたい。

■ 意見交換（要旨）

- 東京や北海道方面への旅行は、スキーをするなど生徒は喜んでいる。最低限、このくらい（4泊5日）の日程であればいろいろな経験ができる。
- 3校の保護者からの修学旅行費用について意見を聞いたが、ほとんどの保護者は13万円は負担にならないとのこと。ただし、双子や年子の場合には負担が大きいという意見もあった。また、積み立ての期間が長い方が負担感が減る。費用を負担する側としては、きちんと処理され、有効に使われているのかを注視している。
- 保護者としては、ホテルの質や海外旅行の緊急時の保護者対応に係る補償が含まれているかなどが重要な観点のひとつである。また、安全性も重要であり、海外旅行の場合は、海外に旅行業者の支社があるほうが安心する。
- 効果的な修学旅行とするため、いろいろな工夫を入れていくと一定の費用がかかってしまう実態がある。保護者負担の軽減も必要であるが、内容や安全性も重要である。
- 修学旅行の日程については、学校行事や部活の関係で修学旅行日程が限定され、また、インフルエンザの流行等、生徒の健康管理も踏まえて決定している。
- 修学旅行経費の基準は実態と合っていないので見直す必要あり。新たな基準を示すことは選択肢の一つだが、修学旅行の目的・行先等が違う中で金額を定めることは技

術的に難しい。また、同じ企画であっても実施年度や旅行シーズンによって金額が変わってくる。

- 大分県の高校は学校から空港までの距離が遠く移動経費がかかるなど、他の九州各県と比較し経費がかかると聞いている。
- 海外に修学旅行にいった保護者から、「国内より経費が高いが、きちんと海外へ行くことの説明があって納得している。高いとは思っていない。」との声があった。国内と海外は別に考える必要がある。
- 修学旅行費用を下げれば、経済的理由により修学旅行に行けない割合が下がるか。経済的理由により修学旅行に行けない生徒に手当をすることを考えた方がよいのではないか。PTAや同窓会が（修学旅行費）貸与を行っている学校があると聞いたことがある。修学旅行に特化した奨学金は全国でもない。
- 保護者アンケートはほとんどの学校で実施。また、業者選定の際に保護者の代表に来てもらう学校もあるなど、いろいろな実態がある。学校職員だけでの決定では納得できない保護者もいる。決定過程に保護者を入れ、手続き・体制を全体でつくっていくべき。
- アンケートの情報は、複数箇所の行先、金額等の情報を載せることや、自由記載欄を設けるなど、保護者の意見を聴取する工夫も必要。
- 修学旅行については幅広い実施時期を求めるとともに、仕様書については、もう1歩踏み込んで作成し、入札方法を明確にすることにより、入札業者が参加しやすくなる。
- 修学旅行を取り扱う業者から意見を聴取することも重要である。県教委から業者に意見を聞いてみたい。
- 小中学校では複数の学校がまとまって修学旅行を実施している例もある。他県で複数の高校がまとまって修学旅行を実施している事例を確認して欲しい。

以上

- 問い合わせ先
担当課 大分県教育庁高校教育課（管理予算班）
電話番号 097-506-5601